按に、仙北の二字、雄勝平鹿山本三郡の總號にして、往古一郡の名に非る事、第一卷幷前件にも記し、土人に聞に、寛文四年辰山本郡を仙北と改といへども、東鑑文治元年條に、出羽國山本郡と有ば、郡名に用たる事も近代の事とは不見、但近年米澤上杉家より寫し出たる國繪圖を見るに、當郡を山本郡と記し、土人寛文年中、山本郡を仙北と改といふも、此説によれば據有に似たり、仙北郡といふ事、上杉家の國繪圖には見へず、今の山本郡をば檜山郡と記す、檜山は鄕名にして郡名にはあらず、是のみならず鄕名を郡名にしたる所二三ケ所有、

〔出羽國風土略記〕出羽國略○中國史を考れば、仙北は古山北と書て、郡名とは見へず、三代實錄元慶四年二月二日、先是出羽國云、管諸軍中、山北雄勝、平賀、山本三郡、遠去國府、近接賊地云々、山北は郡名にあらざる故に、三郡とは書しなるべし、郡名ならば四郡と書べき所也、略○中土民、庄内三郡と言るも據有に似たり、國府より北に當て鳥海山有、略○中雄勝、平鹿、山本三郡は鳥海山の後にして、國府より北に當るが故に、山北とは稱したるにや、又出羽は、東山道の内にて、三郡は北にあたれば山北といひしにや、近年開板の節用集に、山北を郡數に入ざる事、三代實錄に叶へり、但東鑑十卷、文治元年正月の條下に、出羽國山北郡とあり、又千福山本共あり、先年彼地の土人より來る文に、仙北平鹿郡とあり、

〔三代實錄三十四陽成〕元慶二年七月十日癸卯、出羽國飛驛奏曰、略○中其雄勝城承十道之大衝也、國之要害尤在此地、仍遣左馬大允藤原滋實、左近衛將曹兼權大目茨田直觀額等、以雄勝平鹿山本三郡不動穀給郡内及添河霜別助川三村俘囚、慰喩其心、令相勵勉、略○下

〔三代實錄三十七陽成〕元慶四年二月廿五日己酉、先是出羽國言、管諸郡中、山北雄勝平鹿山本三郡、遠去國府、近接賊地、略○下

〔郡名考〕出羽　飽海アクミ　アタミ

飽海郡